

## 炉辺談話(420)

### 歴代 RI 会長のプロフィール 5

1930-31 年 アルモン・ロス

カリフォルニア州パロアルト

アルモン・ロスは中西部のサウスダコタで生まれましたが、少年時代に家族と共にカリフォルニア州レッドウッドに転居し、材木小屋で斧を振るいながら青春時代を過ごしました。

パロアルトのリーランド・スタンフォード大学に進みましたが、そこで法律を学びながら、生徒会の会長を務め、フットボールや陸上競技で活躍しました。卒業の後、オールアメリカン・リーグのチームに入って、オーストラリアやニュージーランドに行きましたが、大学の顧問としてスタンフォード大学に戻りました。その後7年間、サンフランシスコで会社法を勉強し、18年間契約で監査役として再びスタンフォード大学に戻りました。

彼はゴルフや狩りや釣りを楽しむ、素晴らしいスポーツマンでした。

海に関する職業に縁があって、パシフィック・アメリカン船主協会、雇業者福祉協会、サンフランシスコ雇業者協会でリーダーシップを発揮しました。当時海運業は緊迫していました。しかし、彼の法律的な能力と公正な感覚は、何10年間も継続する安定した雇用関係を持続ことに大きく貢献しました。

第二次世界大戦中は全米戦時労働委員会、1944年には海運業における問題を解決するための全米海運協会を設立しました。1947年に、パロアルトの法律事務所に戻り、パロアルト・ナショナル銀行の理事やカリフォルニア商工会議所のリーダーを務めました。

1922年、36歳のときにパロアルト・ロータリークラブのチャーター・メンバーになり、その後何年間も名誉会員として留まりましたが、1937年にサンフランシスコ・クラブに移籍して正会員になりました。

地区ガバナーとし在任中、彼の地区は93パーセントの出席記録を達成しました。ロータリー会長に就任した時期に大恐慌後の悲惨な時代を迎えましたが、彼のリーダーシップはいささかの衰えもなく、彼の勇気ある性格と強い信念は時代に合った選択をしました。

アル・ロスは、1964年1月1日に逝去しました。

---

1931-32年 シドニー・パスカル

イギリス ロンドン

シドニー・パスカルは製菓会社の経営者でした。第一次、第二次世界大戦に従軍し、産業界や公職や判事や地方議員やロータリークラブの会長として、国際的な評価や組織の権威を高めた専門家でした。シドニーは、父親から製菓会社を引き継いで、長年社長を務め、ロータリアンとして、ロータリーの職業奉の理念を自らの会社だけではなく、イギリスの産業界全体にも適用しました。製菓業界と雇用者協会の会長や、イギリス産業協会の副会長を務め、1927年にジュネーブで開催された世界経済会議で、国際ロータリーの代表を務めました。

1919年にロンドン・ロータリークラブの会員となり、主に職業奉仕の分野でクラブとRIの双方でその能力を発揮し、さらに世界理解と平和の推進に熱心に取り組みました。シドニーは、一般ロータリアンの知識不足を憂い、ロータリー情報委員会をより効果的に活用する計画をたて、目標設定計画と呼ばれる新しい制度が、1927年にベルギーのオステン国際大会で採用されました。

第二次世界大戦の間はロンドン・クラブのリーダーとして、世界的規模で青少年交換を促進するキャンペーンを実施し、1942年には、ロンドン近郊の地区で、23人の政府や教育界の代表を集めて、青少年に影響を与える戦後の問題に関する大会を開催して、シドニーはその議長を務めました。

シドニー・パスカルは、イギリス、ヨーロッパ出身の最初のRI会長を務めましたが、1949年8月4日にこの世を去りました。

---

1932-33年 クリントン・アンダーソン

ニューメキシコ州アルバカーキ

クリントン・アンダーソンはサウスダコタの農場で、スウェーデン出身の両親の間に生まれ、ダコタ・ウェスリアン大学とミシガン大学で教育を受けました。彼は故郷に戻ってニューメキシコ州のアルバカーキで新聞記者や保険のセールスマンを務めました。

彼は熱心な野外スポーツの愛好家であると共に国を愛して、役人としての永年の経験を生かして、アメリカの農家の生活が向上するために彼の人生の多くを費やして奉仕しました。しかし、最初は、ロータリーにおける奉仕でした。

彼は、1919年にアルバカーキ・ロータリークラブに入会し、早速、地区やRIで活躍しました。36歳の時に、最も若いRI会長に就任しました。ロータリー会長を済ませた1934年に、ニューメキシコの州の財務長官になって、政治分野に進出しました。

1935年には、ニューメキシコ州救済機関の責任者に、1936年には、失業者救済部門の理事を務め、1941年に、アメリカ下院議員に選出されました。1945年には、合衆国農務長官とを務め、1948年には上院議員に選出され1973年まで在任しました。ニューメキシコでは、メキシコ人の農業移民やインディアンの窮状を救うために努力を払い、両者の経済的、社会的な利益のために真面目に活躍しました。

特に、彼らの材業の発展を支援し、ロータリアンの事業家と共にプロジェクトを進めました。彼はまた、多くの政府委員を務め、1945年にはケベックで、34名の国連食糧農業機構のアメリカ代表団の団長を務めると共に、航空宇宙科学委員会と原子力共同会議委員会の議長となり、世界の平和を追求する科学知識の応用に取り組みました。

彼は1975年11月11日にこの世を去りました。

---

1933-34年 ジョン・ネルソン

カナダ・ケベック州モンリオール

カナダ出身の3番目のRI会長、ジョン・ネルソンは、ブリティッシュコロンビアの新聞記者兼編集者でした。当時は海底ケーブルが引かれる前で、太平洋沿岸の記者は、海外のニュースを得るために、アジアやオーストラリアから船に乗って取材しなければなりませんでした。そこで彼は、国際関係に関して深い関心を持つようになりました。

13年後、ゴールドラッシュの狂乱期に、バンクーバー島のビクトリア・タイムズから、本土のバンクーバーに赴いて、バンクーバー・ニュースの顧問に就任しました。5年後に、彼は2人のパートナーと共に、バンクーバー・デイリー・ワールドを買収しました。4年後に重役として自由契約になり、カナダの最も売れっ子の雑誌記者になりました。

1909年にイギリス外務省の諸問題を学ぶために英国全土の新聞記者が集まった、最初の大英帝国記者会議に、アメリカ及びカナダの雑誌の貢献者として出席しました。ジャックは、カナダの沿岸部全体に有線のニュース配信に尽力し、カナディアン・プレスは米国のAP通信と同じように成長しました。

また、東洋文明が西洋に伝わる過程を調べるためにアラスカからメキシコまでの太平洋沿岸調査を指導しました。太平洋に接する国々の安全と平和を守るための、太平洋問題研究会を設立し、それを発展させました。モントリオールでは、40ヶ国に支店を持つサン生命保険会社の広報相談役として、別の才能を発揮しました。

北米インディアンのイルコイ連合に対する彼の奉仕は「偉大な輝ける太陽」と称えられました。ジャック・ネルソンは、バンクーバーで最初のロータリアンとなり、クラブ会長を務め、さらに、28地区のガバナーを務めました。

「人に対する深い思いやりの心、人間に欠かすことのできない融和。奉仕こそ、彼の心の糧でした。」1936年1月24日にジャックの死に当たって、カナダの元会長レスリー・ピジョンは以上のような讃辞を贈りました。